

平成二十五年度 冬季 鎌倉俳句&ハイク

季節 「冬」

期間 平成二十五年十一月一日～平成二十六年一月末
投句数 二、〇五三句

特選三句

天

日本に箸ある限り文化の日

神奈川県三浦市 秦 孝浩

地

小笠原宗家健在弓始

埼玉県狭山市 古谷多賀子

人

箒手に庭師の仕事初めかな

東京都武蔵野市 池田章子

入選句

一般の部

ひなたたぼこ一人二人と仲間来る

大阪府豊中市

安藤知明

虚子立子記念館訪う冬紅葉

山梨県甲斐市

石川一男

寒ぼたん姫のごとくに鎮座して

東京都練馬区

木賀加容子

立冬を明日に蕾を開く薔薇

東京都町田市

竹内弘

過ぎ行きて蠟梅の香に佇ち止まる

神奈川県横浜市青葉区

月野木麻里

霜月や露座の大仏影長し

神奈川県鎌倉市

土山忠滋

ただ前へ前へと進む初詣

東京都世田谷区

豊島隆之

鎌倉のまろき日だまり野水仙

神奈川県横浜市戸塚区

浜名好秋

的裏に鬼と大書や弓始

埼玉県狭山市

古谷彰宏

木守柿老いし石工の鑿の音

神奈川県逗子市

森澤謙二郎

為す事のだんだん多し春隣

神奈川県横浜市青葉区

山下省三

鎌倉の空引きしぼり弓始

千葉県船橋市

栗原 勝

小春日や夫とはじめて由比ヶ浜

群馬県高崎市

松浦富紀子

初景色浪波は先を運び来る

神奈川県鎌倉市

中久喜皓

喰積に一椀の湯気豊かなり

神奈川県鎌倉市

中久喜彗以

鎌倉のどの径ゆくも小春かな

神奈川県横浜市港南区

田阪武夫

逢いたくて冬霧にほふ駅に佇つ

神奈川県横浜市鶴見区

林 千鶴子

小春日に観音様の笑やさし

神奈川県横浜市鶴見区

鈴木和枝

雨あがり長谷寺からの冬の海

群馬県前橋市

澁川武雄

一句しるすペンを持つ指かじかみて

埼玉県さいたま市岩槻区

澤浦和美

(順不同)

入選句

子どもの部

だいぶつに小はる日よりの日が当たる

栃木県大田原市

日高友葉

大仏の前も後ろも秋日和

埼玉県熊谷市

山中遥希

長谷寺でかじかむ指に息かけて

東京都足立区

池田泰輝

鎌倉をさむさに負けず楽しんだ

東京都足立区

内藤優貴

寒い冬人の笑顔であたたまる

東京都足立区

鬼丸怜也

坂道をのぼるたびにでる白い息

東京都足立区

柏井玲那

春近し木の間から日が入る

東京都新宿区

太田美沙希

江ノ電で突然見えた梅の花

東京都新宿区

木下奈波

鳥たちが一列並んでひなたぼこ

埼玉県さいたま市南区

岡村野々花

大仏の冬暖かなその瞳

埼玉県さいたま市南区

内山雄太

(順不同)